

番号	R5-事前-3						
課題名	「シャインマスカット」の高品質安定生産技術の確立						
課題の概要	加温栽培「シャインマスカット」において、高糖度で高品質な果実を安定して生産可能な栽培技術を確認する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	3人	2人	1人	0人	0人	4.3
	有効性	2人	3人	1人	0人	0人	4.2
	効率性・妥当性	2人	2人	2人	0人	0人	4.0
	総合評価	3人	3人	0人	0人	0人	4.5
助言・指摘事項等	<p>1. 適宜習得した画像データと、環境データとを合わせて解析することで、高品質栽培につながる情報が共有できると思う。</p> <p>2. 岡山県の主力農産物であるシャインマスカットの高品質安定生産技術の確立は、岡山県の生産者にとって喫緊の課題であり、優先的に実施すべきと考える。生産者の要望にすぐに応えるという観点からは、提示された研究方法は妥当であるが、将来的には、施設園芸における脱炭素化の重要性も踏まえ、外部エネルギーへの依存度を極力減少するための研究についてもご検討いただきたい。</p> <p>3. 消費者ニーズの高いシャインマスカットの高品質保持と、安定生産技術の確率は喫緊の課題と言える。高額な機器導入ではなく、スマートフォンを利用するなど、誰もがができる管理技術の研究が望まれる。</p> <p>4. 生産者が使いやすい技術の開発につながることを期待する。</p>						

番号	R5-事前-4						
課題名	DXを活用した水田転換園における果樹の省力・安定栽培技術の開発						
課題の概要	モモ栽培でドローンによる診断手法や新樹形を活用した新規栽培者が取り組みやすい水田転換園での省力・安定的な栽培技術を開発する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	3人	1人	2人	0人	0人	4.2
	有効性	2人	4人	0人	0人	0人	4.3
	効率性・妥当性	3人	0人	3人	0人	0人	4.0
	総合評価	4人	1人	1人	0人	0人	4.5
助言・指摘事項等	<p>1. 水田転換園でも、場所、地質によって排水状況が異なると思われるので、そのことも考慮に入れて研究を進めて欲しい。</p> <p>2. 「新樹形によるモモの低樹高・軽労化栽培技術の開発」で創出された成果を踏まえ、一層の省力化、大規模化に対応したモモの安定栽培技術の開発を目指す研究課題であり、優先的に実施すべきと考える。また、東京大学や福島大学と連携して、ドローンによる空撮画像を栽培管理につなげるアプリの作成も計画されており、成果の普及が大いに期待できる。なお、アプリの主な利用者は、新規就農者だと考えられるため、栽培の経験に乏しくても使いやすいものとなるよう工夫していただきたい。</p> <p>3. 土壌の水分状態を可視化し、適切な排水対策に生かすという視点が面白い。農家が自分で行えるシステムにできるかどうかは鍵ではないか。</p>						

番号	R5-事前-5						
課題名	単為結果性ナス品種の特性把握と栽培技術の確立						
課題の概要	単為結果性ナス品種の特性を把握して、ブランドナス「千両」に代わる品種を選定するとともに、省力化、低コスト化技術を確立する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	2人	4人	0人	0人	0人	4.3
	有効性	1人	5人	0人	0人	0人	4.2
	効率性・妥当性	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
	総合評価	3人	3人	0人	0人	0人	4.5
助言・指摘事項等	<p>1. 省力化のために単為結果性ナスの導入を進めることは意義がある。ただし、ブランドの千両ナスより良い品種でないと普及しない可能性があるため、千両ナスとの収量、品質調査は必ず行って欲しい。</p> <p>2. 岡山県の主要農産物であるナスの生産における労働時間短縮を目的とした研究課題で、実効性も高いと考えられる。岡山県の「千両」は漬物用としてのブランドが確立しているということなので、加工適性の検証も実施し、既存の販路の継続を確実にした上で生産量の拡大、担い手の確保につなげていただきたい。</p> <p>3. 新品種選定の場合、味と収量が問題となる。その上で省力化や低コスト化が実現できれば、農家の所得向上にもつながるのではないかと。</p> <p>4. 岡山県の主力品種に代わる単為結果性ナス品種の選定し、ナス生産者の省力化、低コスト化を実現するとともに、所得向上につながることを期待する。</p>						

注意事項

- ① 各評価委員の評価内容を基に、重複する評価内容をとりまとめて記載する等、簡潔にとりまとめてください。また、この資料は、HPで公表する予定ですので、特定の個人を指す事例や特許取得等に支障がある内容は表現を改める等、個人情報の保護や知的財産権の取得等に支障がないよう、配慮してください。
- ② 評価結果欄は全ての項目について、得点を付けた人数を記載し、平均点を少数第1位で記載してください。

令和5年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価結果票

<中間評価>

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
 3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
 1：中止すべきである

番号	R5-中間-1						
課題名	ブドウ新品種の安定生産技術の確立						
課題の概要	県内で注目され、植栽が進んでいる又は進む見込みがあるブドウ新品種の課題を明らかにし、高品質安定生産技術の確立を目指す。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	〃(阻害要因)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	必要性	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	有効性	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	総合評価	1人	5人	0人	0人	0人	4.2
助言・指摘事項等	<p>1. 品種比較試験は重要である。岡山県にあった品種選定の研究は、県でないとできないので、続けていただきたい。</p> <p>2. 温暖化に対応したブドウ新品種の安定生産技術について、主要成果が4課題得られており、計画以上に進捗している。本課題で確認された「グロースクロネ」の特性を踏まえて、R4年度で試験を終了し、生産者の要望に応じて新たな品種の特性調査に切り替えたことも妥当な判断と考えられる。しかしながら、「岡山県のブランド力の強化」の観点から、「ナガノパープル」をどのようにブランド化するかについては、しっかりと考える必要がある。</p> <p>3. 着色にばらつきがある「クイーンニーナ」と、黒い「ナガノパープル」に絞って検討が継続される。課題を解決し新品種につながることを期待したい。</p>						

番号	R5-中間-2						
課題名	新樹形によるモモの低樹高・軽労化栽培技術の開発						
課題の概要	軽労化を目的として「ひだ国府紅しだれ」台木を用いたモモの低樹高栽培法を開発し、早期多収栽培技術を確立する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	〃(阻害要因)	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	必要性	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	有効性	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
	効率性・妥当性	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	総合評価	2人	3人	1人	0人	0人	4.2
助言・指摘事項等	<p>1. 過去3年で十分成果は得られた。この課題が事前-4に継承されるということで、発展させながら研究を進めることを期待する。</p> <p>2. 岡山県の主力農産物であるモモについて、主要成果となる成果が得られており、軽労化と所得向上への貢献が大きく期待できる。課題の進捗状況を踏まえ、「一層の省力化、大規模化に対応した安定栽培技術の開発を目指す新規課題に移行する」という判断も妥当である。</p> <p>3. 一定の成果が見られ、新規課題へと発展、移行される。新しい着果基準、マニュアルもできており、十分な成果を挙げた。</p> <p>4. 種々の品種を検討し、適した栽培技術の確立は重要な取り組みといえる。</p>						

注意事項 事前評価と同じ

令和5年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価結果票

<事後評価>

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番号	R5-事後-1						
課題名	「おかやま黒まめ」の黒マルチ栽培におけるトラクタガイダンスを利用した省力作業体系の確立						
課題の概要	「おかやま黒まめ」の黒マルチ栽培において規模拡大を容易にするため、乗用管理機を用いた省力で効果的な作業体系を確立する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	1人	0人	5人	0人	0人	3.3
	有効性(効果)	1人	0人	5人	0人	0人	3.3
	有効性(目的以外の成果)	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性(費用対効果)	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性(計画)	0人	3人	3人	0人	0人	3.3
	成果の活用・発展性	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
	総合評価	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
助言・指摘事項等	<p>1. これを普及させる上での問題点として、習熟度が重要とのことなので、生産者が積極的にこの技術を習得できる取組を進めて欲しい。</p> <p>2. 「おかやま黒豆」栽培において、非熟練者でも短時間の訓練で容易に習得できる省力的作業体系を確立しており、技術移転が進めば、規模拡大による生産者の所得向上が見込める。技術の導入が生産者のメリットとなる条件を分かりやすく提示し、技術の普及を確実に進めていただきたい。</p> <p>3. 農作業の中で、雑草除去などの作業の省力化は大きな課題である。トラクタガイダンスを利用することで省力化ができ、他の作物にも応用できる。</p>						

番号	R5-事後-2						
課題名	水田農業における次世代への経営継承課題の解決策の確立						
課題の概要	次世代経営者が安定的に経営継承できる環境を整えるため、経営継承事例調査から課題を明らかにし、課題解決方策を提案する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	有効性(効果)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	有効性(目的以外の成果)	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性(計画)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	成果の活用・発展性	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	総合評価	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
助言・指摘事項等	<p>1. 経営者と継承者との考えが異なることを明確にした点は価値がある。経営者と継承者の信頼関係が、継承後の経営に対して重要になると思うが、そのあたりの研究もあっても良かったのではないかな。</p> <p>2. 当初計画に無かった、水田作における認定辞退者の実態を把握したことにより、実効性のある事業継承用チェックリストを作成できている。また、農地の維持拡大において重要なポイントとなっている畦畔管理作業について、課題解決のためのモデルを提示したことは、高く評価できる。今後は、これらの成果を、認定農業者の維持・拡大に確実につなげて頂きたい。また、畦畔管理については、リモコン式草刈機等の貸出事業を県が行っている事例もあることから、本研究で得られた成果の活用方法を考える際の参考としていただきたい。</p> <p>3. 継承者不在に対する対策についても提案できると、より良い成果になったように思う。</p>						

番号	R5-事後-3						
課題名	「ピオーネ」及び「オーロラブラック」の着色安定化技術の開発						
課題の概要	「ピオーネ」及び「オーロラブラック」において、気象の影響を受けにくく、着色を安定化する栽培管理技術を開発する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	有効性(効果)	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	有効性(目的以外の成果)	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性(費用対効果)	2人	0人	4人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性(計画)	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
	成果の活用・発展性	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
	総合評価	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
助言・指摘事項等	<p>1. 黒色ブドウの着色は、非常に重要な問題である。S-ABA剤が商品化されているので、実用レベルの研究を進めていただきたい。</p> <p>2. 主要な黒色系ブドウの「ピオーネ」及び「オーロラブラック」において、着色不良を回避する技術を確立し、また、画像解析により成熟期の果房重の推定可能性を明らかにしたことは高く評価できる。新規調節剤の使用方法については、令和5年度の現地緊急課題で追加検討し、実用的な技術とする計画であるが、市場における黒色系ブドウのニーズは高いとのことなので、技術を確定させ、早期普及につながるよう期待する。</p> <p>3. S-ABAを用いることで着色良化につながったことは大きい。実用上の細かな課題をクリアして欲しい。</p>						

番号	R5-事後-4						
課題名	水田土壌における硫黄欠乏の実態解明と対策技術の確立						
課題の概要	岡山県における水田土壌の硫黄含量の実態を明らかにし、本症状の改善対策技術を確立する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	有効性(効果)	1人	1人	4人	0人	0人	3.5
	有効性(目的以外の成果)	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性(計画)	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	成果の活用・発展性	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	総合評価	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
助言・指摘事項等	<p>1. 硫黄欠乏の発症はなかなかわかりにくい、重要な問題である。今回明らかになった資材の適正使用方法の開発を進めていただきたい。</p> <p>2. 水稻の硫黄欠乏対策において、実効性の高い研究成果を創出し、主要成果4課題、学会発表2課題のアウトプットを得たことは高く評価できる。硫黄欠乏の診断基準を示したことは優れた成果であるが、硫黄欠乏が生じる水田の予測については精度向上が必要なため、土壌診断の励行等、本研究で得られた成果が現場で十分活用されるよう、普及担当部署との連携を深めていただきたい。</p> <p>3. 硫黄を含まない一発肥料が、稲の病気にも関わっていることに驚いた。安定栽培や畑作への転用に期待できる。</p>						

番号	R5-事後-5						
課題名	県産果実のブランド強化と安定供給を目指した鮮度保持技術の開発						
課題の概要	農産物の食味評価方法を活用して、外観のみならず、良食味も維持した高品質果実の安定供給を実現し、一層のブランド強化を図る。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	有効性(効果)	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	有効性(目的以外の成果)	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性(費用対効果)	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性(計画)	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	成果の活用・発展性	1人	3人	1人	1人	0人	3.7
	総合評価	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
助言・指摘事項等	<p>1. 果実品質を維持しながら、長期貯蔵する技術開発は非常に重要である。他の品種での確認作業も進めて欲しい。</p> <p>2. モモ、ブドウの鮮度保持について、長期保存のための技術を構築し、また、化学分析と食味とを関連付けたことは、今後の鮮度保持技術の開発だけでなく、高品質果実の育種や生産技術にも応用できる発展性のある成果である。本研究の経済性評価を踏まえ、長期保存技術が生産者の収益に結びつくよう条件整備をお願いしたい。なお、本課題は、県が直接取り組む課題であるが、理由として挙げられている「農産物の客観的食味評価方法は、本県が国内で唯一開発している」は、他機関でも青果物の食味関連成分等の非破壊測定方法は研究されていることから、今後、同様の研究に取り組む際は、誤解を生じない表現にする方が望ましい。</p>						